

市民タイムス杯少年サッカー新人戦

小差でゲーム展開



優勝、カッポースで父母に駆け寄る旭町イレブン

第二回市民タイムス杯少年サッカー新人戦は十五日、旭町中学グラウンドで、ベスト8に勝ち進んだチビっ子イレブン百六十人余が集まり、市民タイムス杯をかけた決勝トーナメントを行った。

この日の松本地方は朝のうち小雨がはらついたが、昼近くから移動性の高気圧に覆われて晴れ上がり、最高気温も一三・三度(平年並み)と絶好のサッカー日和となった。

試合は準決勝で、力の差が出たところもあったが、あとは小差のゲームを展開。決勝戦を含め、1点が勝負を決めたのが三試合。優勝候補の旭町が1-0で筑摩野の二連覇を阻み、市民タイムス杯の栄冠を手にした。新チームにとって初の公式戦で、自分の背中より大きなセツケンをつけた補欠選手の健闘ぶり、



優勝に導く名監督

「選手たちは本当によくやってくれました。優勝することができ、とてもいい気分です」。少年サッカー新人戦で、旭町を優勝に導く名監督ぶりを見せた。

深志高校時代はサッカー1部、中央大学ではサッカー同好会に所属。三年ほど前、試合中に左足のアキレスけんを切るまで、は、中信サッカーリーグ

の「トンボFC」でプレイしていたスポーツマン。現在は旭町と市内でただひとつの女子サッカーチームの「FC・松本レディーズ」の指導に専念している。

市内のチームとしては初めて2勝した。「六年生チームに五人入っていたし、練習量も豊富でしたから、ある程度

連合会の中なかでも、しにせ、の旭町の監督は八年前から。五十九年には全国大会に出場し、松本の「トナメント」で、一度自信がありました」と話す。縦攻撃では筑摩野のディフェンスにある。右ウイングの曾根原、左ウイングの近藤を十分に使った。横の攻撃に心がけた、という。

優勝後、冬期間の練習について「雪のないとき、グラウンドで、体育館練習も基本を中心に積み上げた。出たら、五十九年以上の成績」と新たなチームづくりに意欲的なところを見せた。

松本市深志二二一七、自営業・小沢潔、36歳



曾根原がゴール右すみへ決勝点

少年サッカー結果

試合は初めてという、ニューフェイスの活躍が場内を沸かせた。試合後の閉会式で新保力大会長(松本市民タイムス社長)は「新人チームらしいフレッシュなフェアプレイを見せてくれ、本場にある熱戦の幕を閉じた。」

| | | |
|----------------|----------------|---------------|
| ◆準々決勝 | 録田 3(2)1-1 堀尻西 | 島立 2(0)0-1 松島 |
| 旭町 2(0)0-1 松本東 | ◆準決勝 | 旭町 6(4)1-1 録田 |
| 筑摩野 4(3)0-0 清水 | 筑摩野 4(3)0-0 島立 | |



▲1点を争う好ゲームを展開した決勝戦 ▼市民タイムス杯を受ける旭町チーム



曾根原君(左)と近藤君

「うれしい、気分は最高」と、少年らしい笑顔を見せてくれた曾根原克朗君(一)と旭町小五年。決勝戦延長前半四分、貴重な1点をあげた。アシスタットの近藤龍大君(一)は「同小五年は」と、先輩よりいい成績をあげたい」と元気がいいと絶妙のパスに満足げ。

| | |
|-----|----------------|
| ◆決勝 | 旭町 0(0)0-0 筑摩野 |
| 延長 | 1(0)0-0 |

△得点●曾根原克朗(旭町)▽アシスト●近藤龍大(同) 両チーム譲らず一進一退の試合展開。延長前半に旭町が1点をあげ、快勝した。延長前半四分、近藤が左からゴロでセンターリング。屋敷がスルーし、曾根原がゴールキーパーの動きをよく見て、ゴール右すみに絶妙のシュートを決めた。これが結局決勝点となった。旭町は俊足ウイングを巧みに使った横の揺さぶり、筑摩野は縦パスを多用するという好対照の攻撃ぶり。旭町は筑摩野のオフサイドトラップに再三かかり、シュートチャンスをつぶす場面も多かった。松本平を代表するチーム同士の対決で、動きもスピーディだった。見ごたえある試合内容だった。

